

臨床研究計画公開文書

当科では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを御希望さない場合は、下記の間合せ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名

大腸憩室出血に対する内視鏡的バンド結紮術と留置スネア結紮術の比較検討

2. 実施期間

倫理委員会承認後より 2022年3月31日まで

3. 実施機関

筑波大学附属病院

4. 研究代表者

研究代表者 奈良坂俊明（筑波大学附属病院 光学医療診療部）

5. 研究の目的

大腸憩室出血における内視鏡的止血術は従来より施行されていたクリップ法に加え、近年ではゴムバンドを用いた内視鏡的バンド結紮術（EBL）とポリープ切除の際に使用する留置スネアを用いた留置スネア結紮術（EDSL）といった結紮止血法が開発され、いずれも早期再出血率は10%程度とクリップ法に比べ良好な成績を得ています。EBLは出血源を同定した後に止血用のデバイスを装着する必要があるため一旦内視鏡を抜去する必要がある一方、EDSLでは内視鏡の抜去は必要がなく速やかに止血処置に移行でき、止血処置時間の短縮が期待できますが、EBLとEDSLを直接比較した検討はなく十分なエビデンスはありません。そこで当院で施行したEBLとEDSLを比較検討することを目的とします。

。

6. 方法

筑波大学附属病院において2013年11月から2020年12月までに下部消化管出血にて入院し、大腸憩室出血に対してEBLもしくはEDSLにて内視鏡的止血術を施行した患者さんを

対象とします。これらの患者さんの年齢、性別、併存疾患、血液検査値、CT検査結果、内服薬、内視鏡検査時の前処置の情報、内視鏡検査結果（治療法等）、再発の有無等の臨床情報を後ろ向きに比較検討します。

7. 倫理審査

筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会に承認されて実施いたします。

8. 公表

研究結果は学会発表ならびに医学論文として発表されることがあります。

9. プライバシー（個人情報）

名前・生年月日・住所・電話番号など、患者さん個人が特定できる情報は使用いたしません。

10. 対象となった患者様への情報開示

対象となった患者様には、調査内容についてお教えすることが可能ですので、ご希望があれば問合せ先にご連絡をください。

11. 問い合わせ

連絡先 筑波大学附属病光学医療診療部 奈良坂俊明

電話・FAX 029-853-3218（消化器内科 平日9:00～17:00）

Email tnarasaka@md.tsukuba.ac.jp